



A 鉄工団地に 参加した県外 企業

最近完成をみたA鉄工団地に参加した
県外企業の例をみますと、まず、経営者
が経営に対する基本方針と目標達成に対
する強い意志を持ち、努力をして、経営
の着眼点についても新製品開発による附
加価値の高いものを企業独自の製品とす
る経営方針をたてています。それに基づ
いて長期経営計画をたて、投資計画を行
っていますので資金的にも無理をせず、
設備投資等についても、まずもうけた金
を引当てる考えであり、それでもまだ、
不足するのであれば長期資金を導入する
方針で、資金繰りも順調に行き、堅実経
営が行われています。

経営理念においても従業員の経営参加
意欲の向上を図るため、企業維持発展の
ための最小限の利益を除き、それ以上の
利益は、全従業員に配分する等利益還元
制度や従業員持株制 を実施していま
す。後継者対策としては、親族、血縁と
は関係なく有能な人材を社内育成し、
重要なポストに配置したり、又新設企業
を設立した時には、従業員をその企業の

代表者としてポストにつける等思い切っ
た人事管理を行っています。

従業員には高賃金をモットーにして、
従業員の生活向上に努力をはらっていま
す。賞与は年四回支給で、福利制度は、
①毎月ボーリング大会及び食事会を一
回。②春、秋各一回の企業グループ対抗
のソフトボール大会。③年一回慰安旅
行。④二年に一回海外旅行、住宅手当と
しては、最高一万二千円支給。災害保険
加入については、企業が三分の二負担
し、本人は三分の一負担で、作業上での
傷病による入院の場合は、一回三千円を
支給するなどにとめています。

販売管理についても、新製品開発によ
る企業独自の製品を持っていることが強
味で、大手メーカーなり大手商社との提
携が可能となり、大手商社系列の販売代
理店と取引を行って販売代金の回収につ
いては、大手商社より直接受取るとい
うことで、売掛金回収の手間もはぶけて安
定した販売を行っています。

技術の向上についても、直接当面する
問題だけでなく、将来計画に備えた開発
的研究も専任者を設けて行われ、新製品
開発については、毎年一億円近い投資を
行い、優秀な技術者は高賃金で迎えるな
ど思い切った手を打っています。

地場企業から の提言

東南産業株式会社社長

東家嘉幸氏談

企業誘致は必要

本県の基本構想にもあるように、現在
のような変化の激しい流動の時代にあっ
ては計画という形で方針を固定するより
もたえず発想の転換をはかりながら、柔
軟な姿勢で対応してゆくことが必要であ
ろうかと思えます。

企業の使命は常に働くもののためにあ
るし、国際的な視野に立って、日進月歩
する産業界の変動を見きわめて、対応し
てゆく必要があります。例えば技術の革
新をはじめ体質改善、協業化、合理化等
について目覚めなければなりません。

当社は地場で生れ育ち発展を遂げてき
たものですが、大手企業進出による影響
は大きなものがあります。例えば技術の
高度化、省力化等について学ぶ点が多
くさんあると思えます。

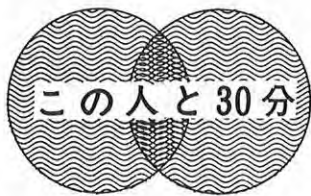
このようなことから企業誘致は進

める必要があるほか、おおむね次の理由
からだろうと考えます。

- 一 県民一人当たり分配所得も全国比で
低位にあり、これを高める必要がある
こと。
- 二 毎年、優秀な新規卒業者が半数以上
も県外に流出していること。
- 三 地場既存工業へインパクトを与える
ことによって、地場企業も奮起し努力
する要素がでてくること。

以上の観点から、県におかれても土地
利用計画をふまえて、生産性の比較的
低い山林、原野、畑地等を工業団地化さ
れ選択的に工業を導入する必要があると
思います。

そうすることによって、新規卒業者の
県内定着化、出稼者の歯どめにもつな
が、地域経済の浮揚も必然的に促進され
るものと信じて疑わないものです。



このコーナーは県出身者で
各界のトップとして活躍して
おられる方々を紹介すると
ともに、県政への提言などをお
聞きするものです。

ふるさとの心を

大覚寺総長

味岡良戒

京都の嵯峨野にある大本山大覚寺は、後嵯峨、龜山、後宇多の三天皇が法灯を守られ、特に後宇多天皇はここで院政を執られたとい
う由緒あるお寺。この「嵯峨御所」とも呼ばれる大覚寺に総長味岡良戒さんを訪ねると、暫らく応接間に待たされた。お茶と
お菓子が運ばれる。見るとそのお菓子の菊の紋所があざやか、いかにも格式高いお寺であることを偲ばせる。味岡さんは、青少年

の健全な育成を図るために祭りの復活を強調。
「ふるさとの心と呼び戻そう。」と話してくれ
た。含蓄のあることばである。球磨郡湯前町出
身。明治三十六年三月五日生れ。高野山中学か
ら東洋大学支那哲学科に進む。戦時中は従軍僧
として活躍、戦後大覚寺に入り同寺の再建に貢
献。現在大本山大覚寺総長。

廃仏毀釈

私は球磨郡の湯前町の農家に生まれま
した。明治維新の時に廃仏毀釈というの
があって、仏教が非常に迫害を受けたこ
とがありますが、味岡家というのはその
害を受けた人々が寄って来たところでご
ざいます。というのは信仰心が非常に篤

かったからです。そしてその人たちが私
のうで、廃仏毀釈に対する色々な抵抗
をやったようですね。

観蓮寺へやられる

私の母親の弟が人吉の観蓮寺というお
寺の住職をしておりました。その叔父で
ある観蓮寺の和尚には跡を取らせる子供
がなかったわけです。そこで姉である味
岡家にやって来て、「姉さんのところは
子供が沢山いるから、どの子か一人私
のところへください」と言ったんですね。
申し遅れましたが、私には兄弟が多いん
ですよ。九人おりますが、私は四番目で
真ん中なんです。すると上も下も行きそ
うなのはおらず、真ん中ならこれはどう
もいらんような子だからということ、
私がやられたんです。

その時は湯前から人吉にまだ汽車が
ない時代です。私もまだ小学校を出たば
かりの少年で、十二・三歳でした。そう
いうわけで母親から「お前は観蓮寺へ行
って、あそこ坊主になりなさい。」と
頼まれて行ったものの、信仰心があるわ
けありません。

また、母が行ってくれと頼んだ時、私
は「それは坊主にでもなりますけど学校
へ行きたい。」と条件を一つ出しまし
た。その時分、球磨郡には三年制の農学
校だけしかなかったもんですから、その
条件というのが「高野山中学へ入れてく
れるか。」ということだったのです。そ
したら「よしやろう。」ということで、中
学校へ入りたいばかりにお寺へ行った

